

成果名	センチピードグラス及びバヒアグラス草地における造成の最適播種量と施肥量		
[要約]	播種量はセンチピードグラスは1kg及びバヒアグラスは2kgで播種翌年には良好なシバ型草地が造成できる。また、センチピードグラス及びバヒアグラスの施肥量はN4kgで十分である		
畜産試験場 草地・放牧経営部	連絡先	0974-76-1216	

[背景・ねらい]

転作水田や遊休農地において、暖地型シバによる造成技術を確立し、肉用牛の省力的管理方法に資する。

[成果の内容・特徴]

- 1 播種量の違いによる被度の推移（図1）
 - 1）センチピードグラスは播種量の1kgと2kgに関係なく、播種翌年には久住町及び三重町ともに被度は100%となる。
 - 2）バヒアグラスは播種量の2kgと4kgに関係なく、播種翌年の被度は三重町で70%、久住町で50%となる。
 - 3）標高の高い久住町でも枯死することなくシバ草地が造成できる。
- 2 播種量と施肥量の違いによる乾物収量（図2）
 - 1）播種量の違いによる翌年の乾物収量に差はない。バヒアグラスの方がセンチピードグラスより多収で、標高の低い三重町が久住町より多収であったが、播種量の差は見られない。
 - 2）施肥量の違いによる乾物収量は、N8kgと倍量施肥しても20%の収量増しか望めず施肥の効果は低い。
- 3 センチピードの播種量は1kg、バヒアグラスの播種量は2kgで十分シバ草地の造成は十分可能で、追肥量はセンチピードグラス、バヒアグラスともN4kgで十分である。

[普及対象]

転作水田及び遊休農地等

[成果の活用面・留意点]

- 1 土壌や気象の条件により播種量を加減する。

[関連データ]

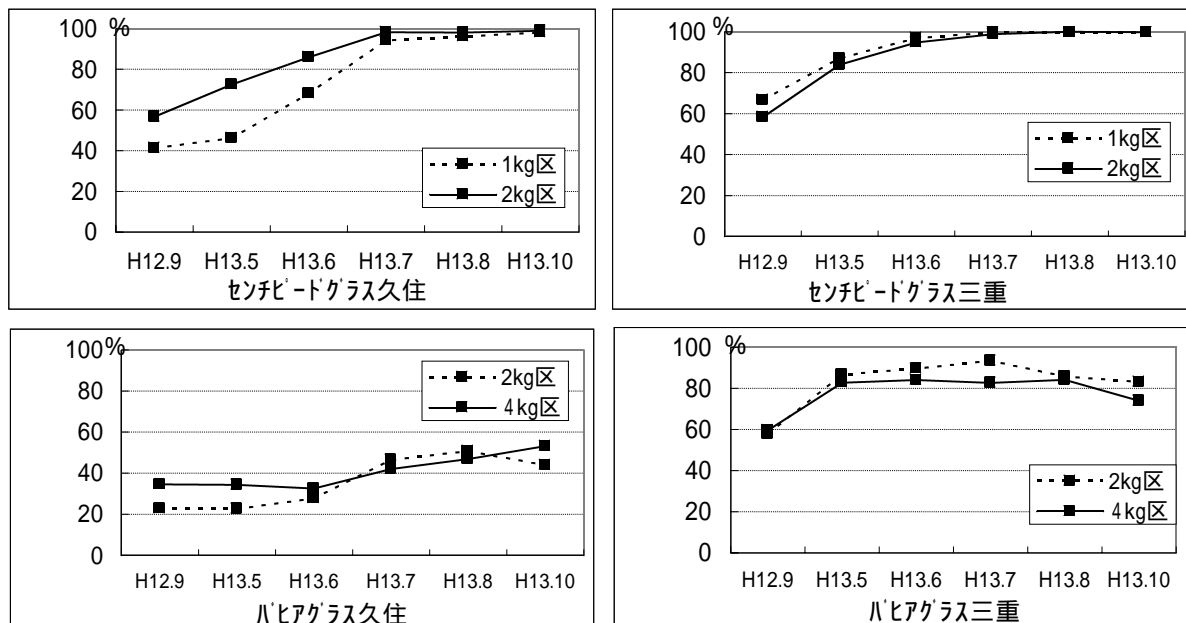


図1 播種量の違いによる被度の推移

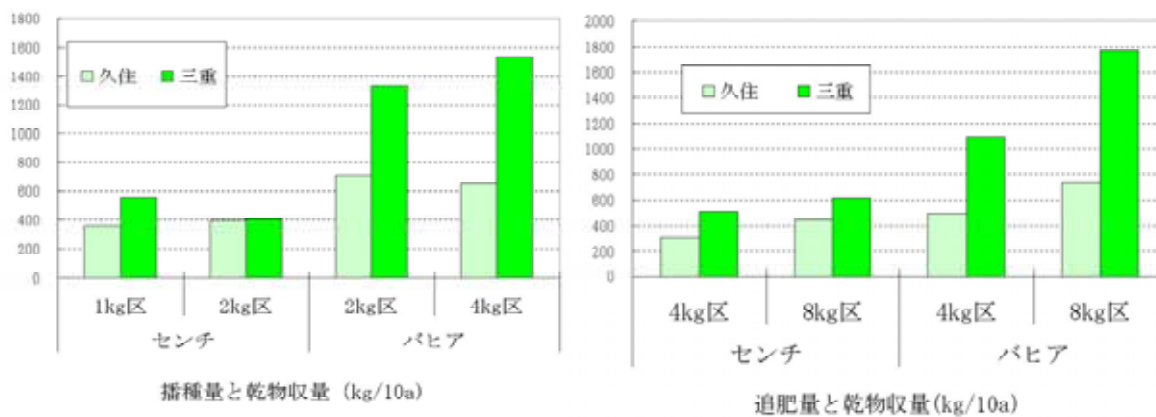


図2 播種量と施肥量の違いによる乾物収量

[発表文献 等]

九州農業研究第64号 (平成14年度)

畜産試験場成績報告書 (平成11~13年度)